特定非営利活動法人アイキャン

2023年度　事業報告書

（2023年5月～2024年4月）

～人々の「ために」ではなく、人々と「ともに」～

Not “for” the people, but “with” the people

アイキャンは、一人ひとりの「できること(ICAN）」を持ち寄ってよりよい社会をつくろうと、たった一人の会社員から始まった国際協力NGOです。

ビジョン（目指す社会）

誰もがもてる力を発揮し、未来を切り拓くことができる社会

ミッション（果たすべき役割）

1、多様な背景を持つ人々の声に耳を傾け、誰もが自らの可能性と社会が抱える課題に気づく機会をつくります
2、その気づきを育て共有することで、課題解決に取り組む力を伸ばします
3、その力を持ち寄りつなぐことで、望む未来をともに目指します

行動指針

人々の「***ために***」ではなく、人々と「***ともに***」。Not “***for***” the People, but “***with***” the People.

活動のお礼とご挨拶

アイキャン30周年　― ともに歩んでいただき、ありがとうございます！ ―

2023年度もアイキャンの活動を応援してくださり、誠にありがとうございました。アイキャンは、2024年度に設立30周年を迎えます。ご寄付やボランティア等、様々なかたちで「できること」を　実践してくださる多くの方々がいたからこそ、私たちは30周年を迎えることができました。本当にありがとうございます。

少しずつ、でも着実に、事業地の人々とアイキャンの「できること」は増えています。かつてフィリピン最大のゴミ処分場だったパヤタスに暮らす女性たちは、手に職をつけたことでゴミ山に頼ることなく収入を得られるようになりました。元路上生活の若者で構成される協同組合「カリエ」は、今も路上に暮らす子どもたちが路上から抜け出すための模範的な存在に成長しました。そしてアイキャンは、児童養護施設を運営し子どもたちの命を守れるようになっています。また、フィリピンでの長年の経験を活かし、国内の課題への取り組みも開始しました。

しかし、社会の変化に伴い新たな課題も生まれ続けています。私たちアイキャンは、もっともっと力をつけていく必要があります。これからも、皆さまとともに「できること」を持ち寄りながら、「誰もがもてる力を発揮し、未来を切り拓くことができる社会」を実現していきたいと思っています。引き続き皆さまとともに歩んでいけると嬉しいです。

事務局長　福田 浩之

SDGs*の達成を目指しています

＊SDGs：Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）…地球規模の課題に対し、2030年までに達成するべきとして国連が掲げる17の目標

スタッフ紹介

◆日本事務局

吉田 文

藤目 春子

庭田 美環

長谷川 薫

天羽 由実子

◆フィリピン事務所

Joan Javier

Mariditha Mondares

Gracilda V.Villamor

Roberto O.Roxas

パートナー紹介

◆「子どもの家」を運営する現地スタッフ

Marites E.Cangao

Riza May Colo

Renato S.Talle

Jonelyn P.Jamandre

Mary Jane G.Pacion

Jonel Tambologan

Rica B.Deblois

JonelとRicaは、協同組合カリエ（P8-9参照）の
メンバーとしても活動しています！

役員一覧 ※順不同

代表理事	鈴木 真帆（特定非営利活動法人アイキャン前事務局長代理）
副代表理事	龍田　成人（創設者／工学博士／特定非営利活動法人アイキャン元代表理事）
理事	宮脇　聡史（大阪大学大学院言語文化研究科准教授／文学博士）
	楢木　隆彦（田園社会イニシアティブ株式会社 代表取締役／美濃加茂市SDGs推進協議会アドバイザー）
	稲葉　久之（フリーランス・ファシリテーター）
	松浦　宏二（認定NPO法人チャイルド・ファンド・ジャパン理事／アイキャン元海外駐在員）

林　雅樹（ITコンサルタント）
阿部　真奈（アイキャン元海外駐在員）
福田　浩之（アイキャン事務局長）

監事　林　俊彰（税理士）

パートナーの皆さま（2023年度　会員・寄付）

【会員】　正会員 20名、賛助会員 54名

【寄付】　62法人・団体、個人 2,561名（一般寄付者 622名、街頭募金寄付者 1,112名、物品収集寄付者 827名）

寄付による法人・団体のパートナーの皆さま（62法人・団体）＊五十音順、敬称略

【ア行】　愛西市立永和小学校、愛知工業大学名電高等学校、特定非営利活動法人アジア・コミュニティ・センター21(ACC21)、イオンリテール株式会社、オートサービスなかがわ、Orange　Rainbow、旺来ＩＴソリューションズ株式会社、特定非営利活動法人おひとりさま

【カ行】　ガールスカウト岐阜県第八団、かみひとねっとわーく京都事務局、株式会社カモン、Canva　Foundation、株式会社9n、株式会社グラント、国士舘大学、認定NPO法人国境なき子どもたち（KnK）

【サ行】　採用商店株式会社、Zakka+Cafe Viento、ジーアセットプランニング株式会社、ji法律経営グループ岐阜事務所、有限会社ショウテック、株式会社スピカワークス、SUMITRONICS　PHILS.,　INC.、生活協同組合コープあいち、西濃学園高等学校、聖霊中学高等学校、株式会社千広企画、有限会社禅コーポレーション、ソフトバンクグループ株式会社

【タ行】　株式会社大京タイヤサービス、地球愛祭り静岡実行委員会、認定NPO法人中部リサイクル運動市民の会、一般社団法人つなぐ、TGK48、株式会社デイリー・インフォメーション中部、株式会社デンデン、株式会社Travelish

【ナ行】　株式会社ナカムラ、特定非営利活動法人名古屋ＮＧＯセンター、名古屋外国語大学　ボランティアサークルLinkS、名古屋市立北高等学校、名古屋女子大学中学校、Narida　AutoParts,　Corporation、日蓮宗本正寺、有限会社西岬種苗

【ハ行】　有限会社白光舎、浜名湖ロータリークラブ、株式会社広瀬屋呉服店、ブックオフコーポレーション株式会社、特定非営利活動法人ふれあいサポート

【マ行】　毎日新聞中部報道センター、マニラ日本人学校、株式会社ミュール

【ヤ行】　安井鈑金株式会社、株式会社矢田工業所、株式会社山木商行、有限会社山崎モータース、株式会社吉田建材

【ラ行】　Rise Against Hunger、Lu minarise、Rotary Club of San Mateo

【ワ行】　YNS株式会社

＊個人のパートナーの皆さまにつきましては、情報保護の観点から、氏名の記載は割愛させていただきます。

参加ネットワーク

【正会員】　（特活）国際協力NGOセンター(JANIC) … 全国規模のネットワークNGO
（特活）名古屋NGOセンター … 中部地域のネットワークNGO

【賛助会員】（特活）ジャパン・プラットフォーム … 緊急救援のネットワークNGO
（特活）フェアトレード名古屋ネットワーク（FTNN）…フェアトレードタウンの発展と認定の継続に向けた活動を強化するためのネットワークNGO

メディア掲載（16件）

毎日新聞 3件、中日新聞 9件、岐阜新聞 4件、毎日小学生新聞 1件、中日こどもWEEKLY 1件、大垣ケーブルテレビ　1件

助成事業

団体・機関名・助成金名	事業名・ 事業内容
公益財団法人 味の素ファンデーション	フィリピン都市貧困地域におけるゲーミフィケーションを活用した食行動改善（2年次:2023年4月～2024年3月、3年次:2024年4月～2025年3月）
公益財団法人 パブリックリソース財団	フィリピン・マニラの路上の子どもたちの未来を作るプロジェクト（2023年5月～2024年4月）
公益財団法人 パブリックリソース財団	路上の子どもたちの愛情あふれるホーム：「子どもの家」の継続を支えるプロジェクト（2023年5月～2024年4月）
真如苑	路上の若者グループ「カリエ」による、フィリピンの路上の子どもの課題の抜本的解決に向けた挑戦（1年次:2023年2月～2024年1月、2年次:2024年2月～2025年1月）
公益財団法人 風に立つライオン基金	フィリピンの路上の子どもの予防と早期介入のための基盤構築事業（2023年4月～2024年3月）
公益財団法人 風に立つライオン基金	フィリピンの路上の子どもの予防と早期介入の拡大展開準備事業（2024年4月～2025年3月）
公益財団法人 ウェスレー財団	ポジティブ・デビアンスの手法を用いたフィリピンの路上の子どもの通学促進（2023年4月～2024年3月）
中央共同募金会	愛知県及び岐阜県で生活する外国にルーツを持つ人々と地域関係者との相互理解促進事業（2022年9月～2023年9月）
中央共同募金会	岐阜県美濃加茂市における外国にルーツを持つ生活困窮者の支援を通じた重層的な支援ネットワーク構築と受援力強化事業（2023年10月～2024年9月）
中央共同募金会	住民主体の多文化共生地域福祉の推進と先進的な事例を波及させる手法開発のための実践研究（1年目）（2024年4月～2025年3月）
電通育英会	自分事から始める共創型リーダーの養成と育成の仕組み化事業（2024年4月～2025年3月）
デンソーグループはあとふる基金	地域団体助成（2023年11月～2024年3月）

補助金

団体・機関名	事業名・事業内容
岐阜県	「世界とのつながりに気づく」絵の展示会

受託事業

団体・機関名	事業名・事業内容
リコー株式会社	フィリピン共和国における小水力発電による働く現場のDX支援事業案件化調査（2023年10月～2024年4月）
ぎふNPOセンター	女性のつながりサポート事業（2024年4月～2025年3月）

株式会社オルタナティブツアー	スタディツアー現地手配業務：アイキャン事業地訪問コーディネート（2023年8-9月、2024年3月：計3件）
株式会社オルタナティブツアー	国士舘大学フィリピン海外研修：現地コーディネート（2023年9月）
株式会社オルタナティブツアー	惟の森スタディツアー：現地コーディネート（2023年11-12月）
株式会社オルタナティブツアー	名古屋外国語大学世界共生学部フィリピン研修：現地コーディネート（2024年2月）
株式会社オルタナティブツアー	名古屋外国語大学現代国際学部フィリピン研修：現地コーディネート（2024年3月）
株式会社オルタナティブツアー	長野県上田高等学校フィリピン海外研修：現地コーディネート（2024年3月）

「できること」に気づく事業

26件の講演

中学校～大学までの教育機関やイベントにて、計26件の出張授業/講演会等を行い、NGOの活動意義や世界の現状及び課題について、約790名の方にお話をさせていただきました。

5件の自主イベントを開催

対面またはオンラインでのイベントを5件開催しました。児童養護施設「子どもの家」の子どもたちとの交流や、映画「フィリピンパブ嬢の社会学」原作者等を招いて多文化共生について考える内容を企画し、計89名の方にご参加いただきました。

7件の事務所訪問を受け入れ

7件の事務所訪問を受け入れ、計33名の方にアイキャンの活動等についてご説明しました。ご説明の後、街頭募金や寄付物品のカウント作業のボランティアをしていただいたケースもありました。

70名が参加

スタディツアーを3回開催した他、中高生～大学生の海外研修や事業地訪問等を計12回企画・実施し、計70名の方にご参加いただきました。

5つのイベントに参加

計17名のボランティアの方にご協力いただき、5つのイベントでフェアトレード商品（フィリピン最大のごみ処分場があった地域の女性たちによる手作りのぬいぐるみや雑貨）を販売したほか、学校・法人様にも委託・買取販売をしていただきました。

15団体を訪問

日本で生きづらさを抱える子ども・若者の居場所づくりや、多文化共生に取り組む15団体を訪問しました。調査を通して把握した課題をもとに、新規事業を2件立案しました。

スタディツアー・海外研修

アイキャンでは、**フィリピンの人々・子どもたちが抱えている課題を学び、解決に向けて行動していく人を増やすことを目的**に、スタディツアーや海外研修の企画・実施・受け入れをしています。参加者は、アイキャンの活動地であるパヤタスごみ処分場や、マニラ首都圏の路上の子どもが多く暮らす地域を訪問し、住民や子どもたちと交流をしながら、**世界規模の課題を知り、自分事として考え、そしてできることを行動に移していきます。**

実施した ①スタディツアー、②海外研修、③事業地訪問は以下の通りです。

①スタディツアー

夏2回、春1回の計3回（①8月23日～8月27日、②8月30日～9月3日、③3月20日～3月24日）実施し、中学生～社会人まで計24名が参加しました。

②海外研修

高等学校や大学等の教育機関からの依頼に基づき、5件の研修を企画・実施し、計43名が参加しました。

③事業地訪問

1～2日間、アイキャンの活動地を訪問して住民と交流する事業地訪問を7件受け入れ、80名が参加しました。

＜参加者の声＞

毎日毎日、実際の現場に足を運ぶこと、感じること、学ぶことの重要性を知りました。日本でも勉強をしてきたけど、分かっているようで分かっていなかったのだと気づきました。支援がきちんと当事者に寄り添

っているのか、貧困がどれほど複雑なのかなど、当事者の声を聴かないと分からないことばかりでした。**私には選択できる自由がある。勉強もやるべきことも面倒くさいって片づけてはいけない。選べる人間が、そんなことをしてはいけないと気付きました。**（Kさん）

初めて物乞いをされたとき、正直怖かったです。でも、スタディツアーで実際に交流した路上の子どもたちは、いろんなルールを知っていて、社会性を持っていると感じました。きっと、私に物乞いをしてきた子どもも、私が知らないだけでそういう一面があるのだと思いました。そのように**先入観を持つことは、自分の学びと経験を損なってしまうと感じました。**（Sさん）

以前もフィリピンには来たことがあり、人々の貧しさも見ました。どうにか力になりたいとは思ったけど、「自分とは違う、価値観が違う、何かが『違う』存在」という位置づけでした。でも今回、路上の子どもたちと交流して、**私は「彼らが自分とは異なる存在」と決めつけて、できることの選択や可能性を制限していたと感じました。助けるのではなく、相手の話をよく聞いて、望む社会のために一緒に行動していくことが大切だと学びました。**（Hさん）

「できること」を増やす事業

2名の子どもが家族と再統合

児童養護施設「子どもの家」において、毎月1回の相談会議と四半期ごとのケア会議を通して、各子どもの自立支援計画を策定しました。今年度は2名の子どもが家族と再統合しました。また、2団体（マニラ日本人学校、湘南ベルマーレ）と連携して、季節のイベントやスポーツを「子どもの家」の施設で2回実施しました。

5つの販路を確保

コロナ禍でカフェを閉鎖した協同組合「カリエ」の新たな店舗を、児童養護施設「子どもの家」の敷地内に建設しました。また、市場調査を2回、販促プロモーションに関する研修を3回実施し、スーパーや企業等5つの販路を確保できました。

40名の路上の子どもへのピア教育

協同組合「カリエ」による「次世代リーダー研修」に参加した35名が、自分たちの地区の路上で生活する子ども40名に対してピア教育（同じ境遇の者同士の経験の共有による学び合い）を実施しました。また、路上で生活する子どもたちがシャワーを浴びられる仮設シャワールームを2つの役場の施設内に設置しました。

38名の幼児が標準の身長・体重に

栄養改善事業において、142名の幼児に給食を週に5回提供し、38名の幼児が標準の身長・体重になりました。また、給食に頼らず家庭での日々の食事も改善してもらうため、食事内容の記録シートや必要な栄養素が描かれたお皿を128名の保護者に提供したところ、97%の家庭において日々の食事に野菜が取り入れられたり、食事メニューの改善が観察されるようになりました。

4名のインターン受け入れ

コロナ禍を経て4年振りにフィリピンでインターンを受け入れ4名が活動しました。

＜その他＞

◆3名のフェアトレード商品生産者団体SPNPメンバーと事業承継に関するミーティングを2回実施し、今後若い世代への技術訓練を実施していく方針が固まりました。

◆アイキャンのフィリピンでの問題解決手法を学ぶ研修プログラムが事業化され、日本の4つの大学生を対象に研修を実施していくことになりました。

特集：路上で生活する子どもの課題に取り組む「共同体」の結成に向けて

子どもたちが路上での生活を余儀なくされるフィリピン社会の構造を改善するため、**中期3か年計画**を策定しました。3年間の事業を通して、**現地政府、企業、市民団体（協同組合「カリエ」などの路上の若者が運営する組織を含む）が垣根を超えて協働**し、子どもたちが路上に押し出されないための予防策と路上の子どもへの早期介入が実施される体制を構築していきます。1年目にあたる今年度は、マニラ首都圏の4地域で、**①路上の子どものロールモデルとなる次世代リーダーの育成**、**②各地域の次世代リーダーのネットワーク形成**を、協同組合「カリエ」とともに実施しました。また、③政府への交渉により**「路上で生活する子どもの保護と福祉に関する委員会」へのアイキャンの参加が認められました。**

①次世代リーダーの育成

協同組合「カリエ」のメンバーが、マニラ首都圏4地域の路上で生活する若者と児童養護施設「子どもの家」で暮らす若者計47名を対象に、自己認識、問題解決、リーダーシップ、コミュニケーションの4つをテーマにした研修を計16回実施しました。その結果、参加者の中から、**地域の子どもたちに通学を促したり、喧嘩している子どもたちの仲裁に入ったりする**など、**次世代リーダーとして行動する者**が現れました。

②各地域の次世代リーダーのネットワーク形成

上記の研修を通して次世代リーダーとして育成された4地域の若者47名が一堂に会し、研修での気づきや学び、自身の地域の状況を踏まえて、今後次世代リーダーとして何に取り組んでいくかを共有する**「次世代リーダー議会」**を開催しました。議会の中では、**協同組合「カリエ」のように、パンやお菓子を作る技術を身につけ、自分たちで収益を上げながら地域の路上の子どもたちの教育に還元していく**ことや、**路上で生活する子どもに対する地域住民の差別的な認識を改善するために、地域奉仕活動（地域のゴミ拾いなど）を実施する**などの活動案が共有されました。また、議会の最後には、**2年目において各地域の次世代リーダーが協働して、別の地域でも次世代リーダーを育成していく**ことが合意され、**地域をまたぐ次世代リーダー間のネットワークが形成されました。**

＜参加者の声＞

僕は子どもの頃、家族を支えるために路上で物乞いをし、学校にも行っていませんでした。でも、アイキャンの路上教育に参加してから、学校で勉強したいと思うようになり、代替教育制度（日本の定時制学校）を活用して勉強しています。今回リーダー研修や若者リーダー議会に参加して、同じ地域の路上の子どもたちに自分のような経験をしてほしくない、**自分が路上の子どもたちのロールモデルになっていきたい**と感じました。

③アドボカシー活動（政策提言）

政府の各省と市民団体で構成される**「路上で生活する子どもの保護と福祉に関する委員会」**へのアイキャンの参加について、社会福祉開発省と度々交渉し、同委員会の会議に**オブザーバーとして参加できるようになりました。**オブザーバーとしての立場ではありますが、**同委員会は路上で生活する子どもたちを取り巻く制度や政策に関して議論する場**であるため、**路上で生活する子どもたちの「声」を政府職員に届ける**役目を果たし、路上の子どもたちを取り巻く環境の改善を図っていきます。

「できること」を持ち寄る事業

4 団体と関係を構築

「支援の現地化」*に向けた基盤構築のため、路上の子どもの課題に取り組む国際NGOと現地NGOの計4団体と、路上の子どもの課題を解決するためのネットワーク形成に関する打ち合わせを2回実施し、関係を構築しました。また、アドボカシー活動として、路上の子どもに関する政策や事業について審議する政府主宰の諮問委員会へのアイキャンの加入を政府高官に打診し、オブザーバーとして参加させてもらう承諾を得ました。

4企業との連携

リコー株式会社と連携し、ミンダナオ島先住民地域での小水力発電による学校施設の電化と、デジタル化による教育の質向上のための調査を実施しました。また、現地3企業と連携し、路上の子どもたちや貧困地域の子どもたちに対して、栄養価の高い食事パックや食糧を提供しました。

827件の物品寄付

未投函ハガキ等の物品収集活動は、昨年度を超える枚数のご寄付をお寄せいただくことができました。新聞やアイキャンの会報をご覧いただいた827名に加え、毎年ハガキ収集の告知をしてくださるコープあいち様を通じて2,059名もの組合員様にもご協力いただきました。ブックオフコーポレーションと連携した古本等の収集については、2回のキャンペーン（寄付額の10%をブックオフから上乗せ）を通して強化した結果、68件（22.9万円）のご寄付をお寄せいただくことができました。

135名の街頭募金ボランティア

今年度は新型コロナウイルス感染症による行動制限が撤廃され、参加人数を制限せず実施できるようになりました。135名（延べ223名）のボランティアの参加を得て11回実施し、通行人1,112名からご寄付を頂きました。

53名の事務所ボランティア

2023年11月に事務所を移転したことで、より多くの方に、より快適な環境でボランティア作業をしていただくことが可能となりました。その結果、日本事務局でのボランティア活動に53名（延べ200名）の方が平均3.8回参加しました。

＊支援の現地化…世界中で拡大し、長期化する人道危機に対し、より効果的で持続可能な現地組織主導の支援に転換しようとする取り組み。

特集：地域共生社会の実現に向けて

外国籍住民の割合が10%を超え、その中でもフィリピン国籍の住民が最も多い岐阜県美濃加茂市において「誰もが住みやすく活躍できる地域社会」を目指して、以下の活動を実施しました。

①多言語相談窓口の運営と自治体との情報共有

2024年1月より、美濃加茂市に多言語相談窓口を開設し、社会福祉士の資格を持つアイキャン職員が、生活上の困り事を抱えた人々の相談（フィリピン語・英語・日本語）にのり、**延べ34件のケースに対応しました。**相談対応だけでなく、**紹介する窓口や機関への同行、役所での手続きのサポートも行い、相談者が確実に必要な支援につながる**ようにしました。生活相談においては、美濃加茂市で主にブラジル人の支援を行うNPO法人ブリッジとも連携するとともに、**アイキャン、ブリッジ、美濃加茂市まちづくり課の3者による支援会議を月に1回開催**し、外国にルーツを持つ人々が抱える生活課題の内容とその要因を共有し、**市の計画や政策に反映させていくための取り組み**も実施しました。また、**市の福祉課や社会福祉協議会、学校とも連携し、文化や価値観の違いを踏まえて、外国にルーツを持つ子どもがいる家庭にどのように関わればよいかについての会議を3回実施**しました。

②誰もが気軽に交流できる地域づくり

美濃加茂市で生活するフィリピン国籍の住民が、同市での生活において何に喜びを感じ、何に困難を抱えているかを把握するために**「おしゃべり会」を開催**しました。**美濃加茂市在住・在勤のフィリピン国籍の住民12名が参加**し、美濃加茂市の良いところ、改善してほしいところをテーマに話し合いました。良いところとして、野菜などのおすそ分けをしてくれる優しい近隣住民がいることなどが挙げられた一方で、**もっと様々な国出身の人々が互いの考え方や文化を知る機会や、日本の制度について学ぶ機会があると良いという意見が出ました。**同会の後、市のまちづくり課と協議し、**今後楽しみながら国籍関係なく交流できる機会（例：各国の料理紹介、親子で英語を学ぶなど）や勉強会（年金、社会保険の仕組みなど）、多文化交流イベントを協働で実施すること**が決まりました。

＜参加者の声＞

私は10年近く美濃加茂市に住んでいますが、このように集まって美濃加茂市について語り合い、私たちの意見を市役所の方々に聞いてもらう機会はなかったので、大変有意義な時間でした。私たちフィリピン人も、日本の人々ともっと交流したいと思っていますが、どう交流したらいいかが分からないので、気軽に参加できるワークショップやイベントがあると嬉しいです。

③外国人コミュニティの参加促進

美濃加茂市に住む外国にルーツを持つ人々が抱える課題に対して問題意識を持ち、何か活動したいと思っているフィリピン国籍の住民3名と意見交換を行いました。日本において習い事や課外活動に参加する機会が制限され、キャリアの選択肢が狭められている現状を踏まえ、外国にルーツを持つ若者に対して多言語でプログラミングやITスキルを教える教室を開設するなどの具体的な活動案について話し合いました。また、外国にルーツを持つ人々に日本語や日本の文化、制度について学ぶ機会を作りたいという住民ともつながることができたため、次年度は**共同プロジェクトを立ち上げていきます。**

岐阜出張所での活動

支援者拡大や活動の裾野拡大、国内の課題への対応を目的に、2023年7月に岐阜県揖斐郡池田町に岐阜出張所を開設しました。岐阜出張所を一般市民に開放し「世界とつながる場」「想いが集う場」「できることを実践する場」

「仲間と出会える場」「新しいものを生み出す場」として機能させていくことを目的に、以下の活動を実施しました。

①国内研修の受け入れ

2つの大学からの要請を受け、世界と日本とのつながりや、国内/地域の課題を把握し、できることを考えるための研修を実施し、計18名が参加しました。多文化共生、地方創生、まちづくり等のテーマで企画・実施し、地域の方々が講師となってくださり、地域の資源が学びの提供源となりました。

＜参加者の声＞

今までは自分の知識のみで物事を見ていたと思うけれど、違う視点で多角的に見るようになり、背景も考えるようになりました。物事の本質を知ることで、無力さを感じることもありますが、自分でもできることがあるかもしれない、という視点で考えていきたいと思います。（学生）

学生の気付きや成長を感じることができ、研修をアイキャンと企画して本当によかったと思います。大人数の授業の中では、課題を「自分事化」することは非常に難しいですが、今回の研修で知った、自分たちだけでは解決できないほどの大きな課題も、「自分事」として認識して行動を起こしていってほしいです。

（教員）

②絵画展の開催

幅広い方に、アートという切り口で、世界の現状や世界と日本とのつながりに気づき、関心を持ってもらうことを目的に、岐阜県内6カ所にて絵画展を開催しました。展示する絵画は、西濃学園高等学校からご寄付で頂いた絵の具を活用し、フィリピンの児童養護施設「子どもの家」の子どもたちが初めて描きました。

＜来場者の声＞

描いた子どもたちが置かれた過酷な現状を知って涙が出て、彼らが確かに持っている希望や夢を知ってまた涙が出ました。**見に来た私のほうが力をもらったような気がします。**

③未投函ハガキ等収集活動

世界の課題に対して「できること」を実践する機会として、名古屋の日本事務局で長年実施している未投函ハガキ等収集活動を岐阜出張所でも行いました。中日新聞、岐阜新聞に取り上げていただいたことで、多くの方が未投

函ハガキ等をご送付・ご持参くださり、アイキャンの活動や「一人ひとりができることを持ち寄ることが大きな力になる」ことを伝える機会にもなりました。

＜同封されていたお手紙より＞

中学の時から趣味で集めていた切手です。今年で70歳になりますが、**新聞を読んで、自分が集めていたものがフィリピンの子どもたちの未来をつくる役に立つことを知りました。**このような機会を頂けたことに感謝しています。

④他団体との協働事業

岐阜出張所の隣町を拠点に活動しているNPO法人泉京・垂井（せんと・たるい）さんと連携し、地域の課題把握・解決に向けての事業を実施しました。泉京・垂井さんは、約20年間にわたり、地域の人々や組織を巻き込みながらまちづくり・地域づくりを行ってきた団体です。**連携の中では、地域の居場所づくりに関わる業務や、地域の課題を地域の方々が力をつけることで解決主体となることを目的とした「地域サポーター研修」に関わる業務の一部を担いました。**それにより、国内にある課題の実情を知るとともに、アイキャンとして「できること」を考える機会となりました。この学びを、次年度以降の活動に活かしていく予定です。

※NPO法人泉京・垂井：住民誰もがまちづくりに自ら参画し、行政、事業者、企業などと協働してまちづくりに関する事業を行い『より幸福度の高いまち・垂井』を実現することを目指し活動するNPO法人です。

⑤「ぎふSDGs推進シルバーパートナー」に認定

昨年7月、岐阜県では「SDGsの達成に寄与する事業者とその取り組み内容等を『見える化』し、広く情報発信をすることで、事業者の更なる取り組みを促進するとともに、SDGsに取り組む事業者の裾野を広げること」を目的に「ぎふSDGs推進パートナー」登録制度が創設されました。昨年岐阜出張所を開設し、活動しているアイキャンは、**「環境、社会、経済の三側面において、SDGsの達成に向けた重点的な取り組みを行っている事業者」として、この度「シルバーパートナー」に認定されました。**今後もSDGs達成に向けた取り組みを行なってまいります。

＊アイキャン岐阜出張所所在地：〒503-2406　岐阜県揖斐郡池田町宮地930　土川商店内

広報・ブランディング、ファンドレイジング、組織体制の改編

①広報・ブランディング

今年度、組織のビジョンとミッションを再定義するとともに、組織として大切にしている価値観を職員間で確認し、どのようなメッセージを外部に発信していくべきかについて共通認識を持ちました。また、今後は**組織で働く職員や現地のパートナーの方々の顔がより見える団体**を目指して、より身近に感じてもらえる内容を各広報媒体で発信することになりました。

年に2回発行する会報と同封する寄付募集チラシは、**誰に向けて発信し、その想定する方々にとってどのような文言が行動につながりやすいか**を議論した上で作成を行いました。紙媒体以外にも、未投函はがき等の募集や2024年4月の「路上の子どものための国際デー」においては、**SNS広告も活用して情報発信**を行いました。その際には、**SNS広告のクリック率、流入経路などのデータを蓄積できる形式で実施し、広告効果の改善**につなげられるように配慮して実施しました。

マンスリーパートナーへの誕生日ギフトにおいては、**他の人に共有したいと思えるギフトの作成**を通して、新規の方々にも当団体の活動を知ってもらう機会が生まれるように工夫しました。

②ファンドレイジング

今年度は、これまで知らなかった世界を知り、新しい仲間と出会う場として岐阜出張所を立ち上げました。その場を市民に広く知ってもらうために、児童養護施設で暮らす子どもたちが描いた絵の絵画展を実施したところ、新聞に掲載され、多くの方に認知してもらうことができました。さらに、未投函ハガキの寄付を通した路上の子どもの課題解決への貢献についても新聞に取り上げてもらうことで、多数のご寄付を頂き、**今年度の未投函ハガキ等の物品寄付を通した収益は、昨年比117.8%を達成**することができました。以上の通り、**岐阜出張所が「できること」を実践できる場として機能するようになっています。**また、今年度はボランティアの方がより集まりやすいシェアオフィスに名古屋事務局が移転したため、今後ボランティアの方々が定期的に集まったり、まだ当団体の活動を知らない方々も関心を持つようなイベントを企画して、名古屋事務局でもパートナーの増加に取り組んでいきます。

また、**ロータリークラブの例会での講演を2件実施**し、各ロータリー会員との親睦も深まりました。名古屋みらいロータリークラブからは、**地区補助金の支援先として当団体が推薦されることが決定**し、当団体と理念を共有する団体や個人との関係性を強化することができました。

③組織体制の改編

外部講師の協力を仰ぎ、計4回にわたり組織のこれまでを振り返り、社会状況の変化を踏まえて、今後は団体として何を目指し、どのような役割を果たしていくかの議論を理事と職員間で実施しました。その結果、**新たなビジョンとミッションを策定することができました。**また、中長期目標と方針も策定したので、次年度以降は具体的な計画に落とし込み、実行していきます。組織の課題として、各職員の業務が見える化されていない点、業務ワークフローが煩雑化している点が挙げられました。今年度は各職員の業務の洗い出しまでの作業に留まりましたが、次年度では業務ワークフローの改善を図っていきます。

募集しています

マンスリーパートナー

マンスリーパートナーは、月々1,000円（1日33円）から一定額をご寄付いただき、アイキャンの活動および運営に活用させていただく制度です。継続的なご寄付は、活動の持続・発展において大きな力となります。ぜひマンスリーパートナーになって「ともに」活動してください！

↑詳しくはこちら

＜マンスリーパートナーの声＞

原田さとみ様

エシカル・ペネロープ株式会社 代表取締役

一般社団法人 日本フェアトレード・フォーラム代表理事

アイキャンさんとは、2015年に名古屋市がフェアトレードタウン認定となるまでの熱い時代を共に切磋琢磨し歩みました。同志であり、私たちの地元名古屋発信で国際協力を実践されている尊敬すべき、特別な団体です。アイキャンさんの尊い活動をこれからも応援させていただきたいと思っております。

未投函ハガキ等

未投函の官製はがき、未使用切手、テレフォンカード、商品券、収入印紙がお手元にありましたら、封筒に入れて、アイキャン日本事務局までご郵送ください。ハガキ1枚は、例えば、フィリピンの子どもが勉強するためのノート1冊分になります！

↑詳しくはこちら

リユース寄付（古本・DVD・ゲーム・おもちゃ等）

ブックオフコーポレーションと連携した、物品によるご寄付の形です。不要になった本や使わなくなったモノ等をブックオフに買い取っていただき、その買い取り額がアイキャンの活動に役立てられます。

↑詳しくはこちら

ホームページ　Facebook　Instagram

認定NPO法人アイキャン（ICAN）

【住所】〒461-0002　愛知県名古屋市東区代官町39-18

日本陶磁器センタービル5F　中部リサイクル運動市民の会内

【TEL&FAX】052-253-7299（休業日：日・月・祝）

【E-mail】info@ican.or.jp　【WEBサイト】https://ican.or.jp/

【Facebook】https://www.facebook.com/ICAN　【Instagram】ican_ngo